

作兵衛さんがつなぐ炭坑の記憶

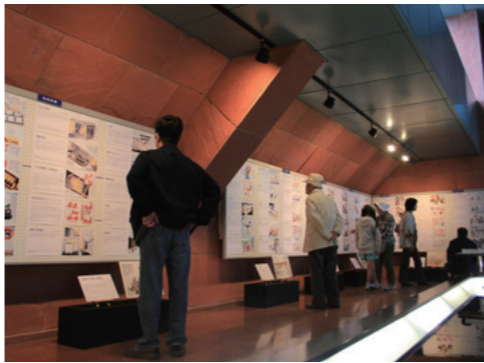
— 全国産炭地キャラバン展

平成24年6月～11月、筑豊・田川と同じ炭坑の記憶をもつ全国5か所の産炭地で、山本作兵衛炭坑記録画（レプリカ）の展示会と講演会を実施しました。
 （主催は田川市世界記憶遺産活用活性化推進委員会）
 全国各地の炭坑は、背景とする歴史や環境によって姿が異なります。山本作兵衛さんが描き残した「筑豊のヤマ」は、他の産炭地ではどのように映ったのでしょうか。

炭坑があるマチ

釧路炭田（釧路市）

北海道の東部に位置する釧路炭田では、釧路市立博物館にて、6月9日から7月13日まで展示を行



↑炭坑記録画の横に展示された説明文を読む観覧者

いました。釧路市では現在も現役の炭坑が稼働していますが、寒流直下の海底において機械で採炭する様子は、作兵衛さんの炭坑記録画と対照的です。

戦後の炭坑で働いた高崎隆さん（太平洋炭鉱管理職釧路倶楽部会長）は「作兵衛さんの炭坑記録画にあるようなツルバシでの採炭はしたことがなく、釧路は寒いため、裸で作業をする人はいない」としながらも「炭坑を観察する力がすごい。先輩から聞いた昔の技術がよくわかった」と話しました。会期中の7月1日には「ユネスコ世界記憶遺産について」山本作兵衛コレクション「登録の意義と課題」と題した栗原祐司さん（京都国立博物館副館長）の講演会を

行いました。

地元の宝を見直す

石狩炭田（夕張市）

北海道の中央に位置する石狩炭



↑真近に見る炭坑記録画に引き込まれる観覧者

田は、筑豊と同じ内陸部に位置します。ここでは夕張市石炭博物館を会場とし、7月29日から8月26日まで展示を行いました。会期中の8月25日、清水憲一さん（九州国際大学教授）による「産炭地の活用と地域活性化について」山本作兵衛コレクション」と九州の事例から」をテーマにした講演の後、地元のみなさんによるフォーラムを開催しました。フォーラムでは、作兵衛さんのような地元夕張の炭坑経験者が描いた、当時の風景画が紹介されるとともに、今年の豪雪で倒壊した夕張市美術館にも話題が及びました。作兵衛さんの遺産を通じて、地元で眠る「ヤマの宝」の大切さを再認識するきっかけになったようでした。

ありのままの姿

常磐炭田（いわき市）

福島県と茨城県の一部を含む常磐炭田では、9月29日から11月4日まで、いわき市石炭・化石館（福島県）を会場として展示を行いました。映画「フラガール」の舞台となったいわき市は、現在、東日本大震災の被害からの復興に取り組んでいます。

10月14日には、田川市石炭・歴史博物館の安藤龍生館長による「世界記憶遺産と山本作兵衛の世界」と題した講演が開催されました。会場からは「作兵衛さんの炭坑記録画は、事故や災害といった炭坑の負の部分も描いている。昔の炭坑社会のありのままの姿をわかりやすく絵にしており、炭坑を知らない世代にも説明しやすい」など、さまざまな感想が寄せられ



↑炭坑記録画の世界をわかりやすく説明しました

ました。

後世へ語り継ぐ

宇部炭田（宇部市）

山口県の宇部炭田では、宇部市石炭記念館にて、9月15日から11月4日まで展示会を開催しました。宇部では炭坑自体は閉山していますが、現在でも海外の石炭を集積するコールセンターが存在しています。

9月17日には、森山浩一さん（福岡県立大学副学長）による「山本作兵衛さんの生活史」と題した講演が行われました。

また、作兵衛さんが炭坑退職後に筆をとり、筑豊のヤマを後世に伝えたというエピソードにあわせて、過去から現在まで、石炭とかわりか深い宇部の歴史を後世に語り継ぎ、地域資源として活用してい



↑たくさんの参加者が訪れた講演会の様子

くことの必要性について、地域のみなさんから話がありました。

軍艦島と筑豊

西彼杵炭田（長崎市）

九州西部の西彼杵炭田では長崎県美術館（長崎市）にて、9月26日から10月28日まで展示を行いました。長崎市は現在、世界文化遺産候補の軍艦島（端島炭坑）が、大きな注目を集めています。

ここでは、軍艦島の炭坑で実際に働いていた人から「作兵衛さんの絵の中に、軍艦島でも使っていた炭坑言葉が記載されている」との話もありました。島と内陸部という環境が異なるものの、軍艦島と筑豊には、実は共通するものもあつたようです。

10月7日には、有馬学さん（福



↑親子連れなど幅広い世代が炭坑の記憶に触れました

岡市博物館館長による「世界遺産と世界記憶遺産」と題した講演会を行いました。

産炭地の交流に向けて

作兵衛さんの炭坑記録画は、時代（明治から昭和戦中期まで）と

場所（筑豊炭田）が限定されたものであり、当然、全国の炭坑にそのまま当てはまるわけではありません。

しかしながら、今回のキャラバン展では、時代や地域を越えた人たちさえも、炭坑記録画によって炭坑の記憶に「共感」できることがわかり、改めて日本の石炭産業史における作兵衛さんの炭坑記録画の重要性が確認できました。

また、「山本作兵衛コレクション」が世界記憶遺産になったことは、各地でも石炭の地域史を見直す契機にもなったようです。

作兵衛さんが気付かせてくれた、そして、つないでくれた産炭地の交流を今後も継続していきたいながら、世界記憶遺産のさらなる活用などに向けた取り組みを行っていく予定です。

お知らせ

炭坑の記録、世界の記憶
 世界記憶遺産
 「山本作兵衛コレクション」
 シンポジウム in 東京国立博物館

2013.2.9 [SAT] 13:30~16:30
 東京国立博物館 平成館大講堂

参加無料

世界記憶遺産 山本作兵衛コレクション シンポジウム IN 東京国立博物館

キャラバン展のしめくくりとして、首都圏・東京にてシンポジウムを開催します。
 ※事前申し込みが必要です。

- とき 2月9日(土)13:30~16:30
- ところ 東京国立博物館(東京都台東区)
- 申込期限 1月23日(水)
- 申し込み・問い合わせ 石炭・歴史博物館 ☎44-5745